2017 年度 小委員会活動成果報告

（2018 年 2 月 25 日作成）

小委員会名	環境バリアフリー小委員会	**主 査 名**：岩田三千子 **就任年月**：2015 年　4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （環境設計運営委員会）	**委員長名**：岩田利枝 （**主査名**：岩田三千子）
設　置　期　間	2015 年　4 月　～　2019 年　3 月	
設　置　目　的 各年度活動計画 （箇条書き）	・公開の見学会などを企画して、設計事例の収集に努めるとともに、ＱＯＬや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握する。 ・委員の持つそれぞれの分野の研究成果について、委員会を年４回開催して情報交換を行うとともに、HP 上において成果を発信する。 ・今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら，メンバー各自がさらなる研究活動を行う。また、それらの成果について、委員会や見学会を企画して継続的に情報交換を行い、知見を広める。 ・大会のオーガナイズドセッションにて、建築環境工学的視点のバリアフリーをテーマとしたセッションを開催し、この分野の議論を深める。	
委員構成 （委員名（所属））	委員公募の有無：無 主査：岩田三千子（摂南大学）　幹事：安部信行（八戸工業大学）、延原理恵（京都教育大学） 委員：土川忠浩（兵庫県立大学）、堀越哲美（愛知産業大学）、土田義郎（金沢工業大学）、村上泰浩（崇城大学）、二井るり子（有限会社プラネットワーク）、田中直人（島根大学）、宮本雅子（滋賀県立大学）、三上功生（日本大学）	
設置 WG （WG 名：目的）	**・環境バリアフリー出版検討 WG**：環境バリアフリー小委員会メンバー各人は、様々な建築環境工学的な研究成果を持っているが、実務者や学生に対してもっと分かりやすく発信する必要がある。そこで、そのことを目的とした出版について検討する。 **・環境バリアフリー・ホームページ WG**：環境バリアフリー小委員会の活動や研究成果を、実務者や学生、および広く一般に対してもっと分かりやすく発信する必要がある。そこで、そのことを目的としたホームページのあり方や内容、更新について検討し、運営・管理を行う。	
2017 年度予算	171,000 円	**ホームページ公開の有無**：有 **委員会 HP アドレス**：http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s18/

項　　目	自己評価
委員会開催数	6　回（年度内計画を含む）
刊行物	なし
講習会	なし
催し物	なし（2017 年度技術部門設計競技（後述）を実施）
大会研究集会	2017 建築学会大会研究懇談会「ユニバーサル社会を支える環境技術－技術部門設計競技の応募作品から見えてきた未来」　参加者数　43 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	１）2017 年度活動計画では「委員会を 4 回程度開催して継続的な情報交換を行う」としていたが、目標を上回る計 6 回の小委員会（年度内計画含む）を開催し活発に活動を行うことができた。 ２）活動計画として「委員の持つそれぞれの研究成果を紹介するために、小委員会ホームページを再構築するとともにコンテンツを作成・掲載し、ホームページを通して情報発信する」としていたが、2017 年 7 月～2019 年 3 月を活動期間として「環境バリアフリー・ホームページ WG」や「環境バリアフリー・出版検討 WG」を設置し、情報発信の機会を広げ、HP 内容を充実した。 ３）2017 年度大会において、技術設計競技「ユニバーサル社会を支える環境技術 - 多彩な利用者の安全快適な環境デザインをめざして」、および、研究懇談会「ユニバーサル社会を支える環境技術－技術部門設計競技の応募作品から見えてきた未来 - 」の企画・運営に関わり、バリアフリーデザインやユニバーサルデザインの実現において、環境工学的な視点が重要であることを設計者・デザイナーなどに対して啓発するとともに、活発な議論を行って情報交換した。
委員会活動の問題点・課題	大学教員は本務ほか多忙であり、日程調整がしづらい。

2017 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	(A)　B　C　D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	１）本小委員会は、建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザインに関する研究者とも連携し、今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら，メンバー各自がさらなる研究や社会貢献を行うことを目的として活動している。2017 年度は、当初計画よりも多い、６回の小委員を開催して活発な情報交換を行った。 ２）2017 年度は、環境バリアフリー小委員会に「環境バリアフリー出版検討 WG」と「環境バリアフリー・ホームページ WG」の 2 件を設置し活動を開始した。それぞれの WG は、小委員会開催時以外にも、会議、Web、メール等を利用して活発に活動を行い、小委員会のメンバー各人が持つ様々な建築環境工学的な研究成果を、研究者、実務者、学生、さらには一般に対しても、発信する環境を整えた。2017 年度の特筆すべき成果であり評価できる点である。 ３）2017 年度大会では、技術設計競技「ユニバーサル社会を支える環境技術 - 多彩な利用者の安全快適な環境デザインをめざして」の企画・運営に関わり、バリアフリーデザインやユニバーサルデザインの実現において、環境工学的な視点が重要であることを設計者・デザイナーなどに対して啓発した。 さらに、2017 年度大会では、研究懇談会「ユニバーサル社会を支える環境技術－技術部門設計競技の応募作品から見えてきた未来 - 」の企画・運営に関わり、研究者および設計者、デザイナーなどと相互に活発な議論を行って情報交換をした。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。